

第57回人間科学セミナー

日時：2022年11月10日(木)14:30～16:30

場所：ラーニングコモンズ+Zoom

統計的因果推論と交絡調整

講演者：山本倫生 准教授
(行動統計科学)



ものごとの原因と結果の関係を探求することはあらゆる科学分野における大きな目的の1つである。このような科学領域は因果推論と呼ばれ、心理学、社会科学、医学などの諸分野で広く実践されている。統計学では1990年頃以降、因果推論の理論や手法が体系化され、現在も理論・応用の両面において研究が活発に行われている。本セミナーでは、まずは、統計的因果推論で用いられる主流なフレームワークとして、ネイマン-ルービン因果モデルと構造的因果モデルの2つを紹介し、各モデルに基づく因果効果の定義について解説する。また、因果効果の識別のためには交絡因子の調整が重要な役割をもつ。そこで、交絡の定義、および、交絡因子の同定方法について解説し、それに関連する講演者の研究について簡単に紹介する。

学習意欲に着目した教育のデザイン

講演者：後藤 崇志 講師
(教育工学)



「馬を水辺に連れて行くことはできても、水を飲ませることはできない」とは、学習者の意欲を引き出すことができないければ指導が意味をなさないことを例えたイギリスのことわざである。教育者が「意図した通りに受講してもらえさえすれば、高い学習効果が期待できる」機会を整えたとしても、そこに学習者が意欲的に取り組まなければ十全に効果を発揮することはできない。本報告では、1) 学習の価値を見出してもらうことで、学習者の意欲を向上させる教育実践と、2) 学習機会に意欲の面での幅広い層の参加を促す教育実践について、その効果検証の結果とともに報告する。誰もが可能性を発揮し、成長できる教育機会をデザインする上で、学習者の意欲の構造・機能・実態を把握することの重要性について議論したい。



大阪大学大学院人間科学研究科

附属

未来共創センター

お問い合わせ先: mirai-kyoso@hus.osaka-u.ac.jp

オンライン
の場合は、
お申込みが
必要です→

